

WCHS2024 学会参加報告書

報告者：渡部 純

所属：自治医科大学 消化器一般移植外科

参加学会：World Congress Hernia Surgery 2024

開催日：2024年10月9日～10月12日

開催地：シンガポール

参加形式：現地参加

1. 参加目的

今回の学会参加の一番の目的は、初めての国際学会の口演で発表することでした。二番目の目的は、最新の腹部ヘルニアに関する研究と治療手技の進展を学び、自身の臨床及び研究活動に役立てることでした。加えて、国際的な医療コミュニティと

のネットワークを強化し、意見交換を行うことで更なる知見を得ることを目指しました。



2. 学会の概要



World Congress Hernia Surgery

2024 は、アジアを中心に世界各地から専門家が集まり、腹部ヘルニア治

療に関する最先端の治験と技術を共有する国際的な学術会議です。

学会前には Workshop もあり実際に知識や実践で様々なコースを学ぶこともできます。また、世界的にロボット手術や腹壁癒痕ヘルニアの手術手技に注目が集まっている印象を受けました。

3. 発表内容「The impact of non-invasive manual and ultrasonography reduction for incarcerated obturator hernia」

概要：今回閉鎖孔ヘルニア嵌頓の非観血的整復の効果を自施設のコホートと Systematic review and meta-analysis で評価しました。非観血的整復の中で、超

音波ガイド下整復は徒手整復よりも成功率が高く、発症から 72 時間未満で整復に成功した場合、緊急手術や腸管切除は必要ともしませんでした。一方、発症から 72 時間以上で整復に成功した場合は、その後遅発性の穿孔で緊急手術になる可能性もあるため入院の上慎重に経過観察が必要です。今回の発表内容は Hernia に出版済みです。ご興味ある方は是非ご覧頂ければ幸いです。

Kobayashi F, Watanabe J, Koizumi M, Yamaguchi H, Sata N. The impact of non-invasive manual and ultrasonographic reduction for incarcerated obturator hernia: a retrospective cohort study and systematic review. *Hernia*. 2024 Oct;28(5):1547-1557.

<https://doi.org/10.1007/s10029-024-03119-4>

感想・反応：発表は 3 分間と短かったのですが、事前に大学の英語の先生に指導を受けていたのが非常に良かったです。また事前に論文にまとめて査読者とやり取りしていたため、受け答えも困ることなくできました。

4. 学会参加を通じての成果と今後の展望

この度は WCHS Scholarship 2024 に選出頂き誠にありがとうございました。

私にとって初めての国際学会での口演発表となりましたが、演題登録、事前参加登録、事前のスライド提出、当日のネームプレート受け取りなど非常に順調でした。事前のスライド提出後も発表用スライドは変更可能とのことで、日本の学会と同様に当日変更可能で、発表もスムーズに行うことができました。

また、日本ヘルニア学会で知り合った先生にもお会いすることができ、国際的な医療コミュニティとのネットワークを強化し、意見交換を行う重要性にも気付くことができました。引っ込み思案な私を前にプッシュしてもらって、会話に混ぜてもらったのは良い経験です。今後参加する場合は自分から積極的に話しかけて行こうと思います。最後になりましたが、貴重な経験をさせて頂く機会を頂きました JHS の国際委員会の三澤健之先生、JHS 理事長の蜂須賀丈博先生をはじめ関係各位の皆様に深謝致します。